

厳しい環境の中で変わる農業生産

チッソ旭肥料株式会社

社 長 竹 田 博



新年明けましておめでとうございます。

新しき年の初めにあたり日頃よりご愛読頂いております皆様方のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。

昨年は日本の経済は不良債権の整理という大鉈が振るわれ、景気が回復基調になってきています。

農業生産においては、一昨年は冷夏と日照不足の影響が出ましたが、昨年のは前半は順調な生育が認められ順調な収穫が期待されました。しかし夏場に入り記録的な集中豪雨に続いて、気象観測史上初の連続真夏日による酷暑（日照り）、上陸個数が過去最高を記録した台風、更に中越地震等々稀に見る天災に見舞われ、全国的に順調に生育したものが一転して大打撃を受けることになりました。被災された皆様方には心よりお見舞いを申し上げます。

米作では作柄良から平年並み以下に落ち込みました。場所によっては平年の60%の収量に落ちたところも有ったようでした。秋野菜も長雨と台風の影響で収量が大幅に減少し、市場の価格が暴騰し、政策的な対応まで必要な状況になりました。果樹も台風で落果し収穫を大幅に減らしました。平成16年は自然災害により何処の産地も多少の差は有れ大きな被害を受けた年になりました。

昔から農業は「お天道様次第」と言われることもありましたが、農業に従事される方々が丹精をこめた結果が気象現象や自然災害で大きく左右されるのは如何にも残念としか云い様がありません。

我々の力は天然自然現象の力に及ぶべくもありませんが少しでも影響を受けない農業に変革していく努力はますます重要になっていると思います。

消費者サイドからは「食の安心・安全」が求め

られ、更に環境負荷低減の社会的要請は強くなる一方です。これらに対応すべく肥料・農薬の適切・適正な使用技術がより重要になってきています。こうした傾向に対応すべく農業生産のあり方も変わっていく事が求められると考えられます。

こうした流れの中で弊社は早くからコーティング肥料「LPコート®」「ロング®」を開発・販売して参りました。関係諸先生・諸先輩のご努力により全量基肥施肥として省力栽培と同時に肥料の利用率を上げることにより施肥量を減らすことが可能となりました。更に溶出制御を精緻にすることによって施肥量を削減でき且つ育苗箱全量基肥栽培の技術も開発して時代の要請に積極的に対応してまいりました。今後も更に皆様方のご要望に応えるべく努力をしていく所存でございます。

弊社は肥料の機能性を一貫して追及してまいりました。前述のコーティング肥料の他に、肥効調節型緩効性窒素肥料「ハイパーCDU®」、緩効性窒素肥料「CDU®」、速効性泡状高度化成「あさひポーラス®」、打ち込み型根圏施肥肥料「グリーンパイル®」と「ロングパイル®」、硝酸系高度化成「磷硝安加里®」、高性能育苗培土「与作®」など機能性を重視した肥料・農業資材をお届けさせて頂いています。今後も皆様方のご要望に応じようとするべく努力をしてまいります。皆様方には一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

本誌「農業と科学」は30年以上の永きにわたり諸先生方にご執筆を頂き、参考文献としましても高い評価を頂いております。

本年も従来以上に内容の充実を図ってまいりますので、ますますのご愛読を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。